

オフィス山田の 手作りパソコンネットワーク



The Road
to
Windows95

米国での発売を受け、日本でも、少しでも早く手に入れようとする多くのユーザーがプレビュー版を申し込んでいる。長かったWindows95への道も、少しずつ先が見えてきた今月は、Windows95の最大の特徴であるネットワーク機能を具体的に使い始めてみよう。フロッピーのやりとからの脱却が、ようやく実現するに違いない。

Vol.5 Windows 95 のネットワーク機能 数人でパソコンのリソースを共有するための設定

山田祥平

前回の補足を少し。企業などがUUCPに電子メールの転送をゆだねているのは、独自ドメイン名でのメールアドレスを確保するためだと書いたが、そのほかに、セキュリティのためという大きな理由もある。インターネットに直結してしまうと、不正なアクセスからネットワークを防御するために、ファイアウォールなどの保守管理業務が発生するが、UUCPなら、あまりその心配はないからだ。

その代わりに、UUCPでは、毎時0分などと、時間を決めて定期的にデータを交換することになるので、電子メールのやりとりタイムラグが生じ、リアルタイムでの通信はできない。まさに、あちらを立てればこちらが立たず状態で、各社のアドミニストレーターはずいぶん頭を悩ませているのだろう。

米国で大ヒットの95 プレビュー版も人気

さて、TCP/IPによるLANができあがり、小規模なインターネットができあがったこの連載のオフィスだが、そんなことを書いていううちに、本物のWindows95が、製品

版として出荷が開始された。発売日は8月24日（木）で、その週末までの4日間、北米だけで、100万本が売れたという。

この売れ行きは、ほかのものでたとえらば、映画「ジュラシックパーク」の公開された週の興行成績を追い抜き、「ライオンキング」の倍の成績だということだ。ちなみに、Windows3.1は、100万本が売れるまでに50日間かかったという。日本でも、すでにいくつかのショップに輸入したパッケージが並んでいて、気の早いユーザーが買い求めているようだ。出荷直後は3万円などという値段がついていたようだが、この原稿を書いている時点では12,800円程度に落ちている。米国での一般的なショップでは、90ドル前後で売られているので、そんなに暴利ではない。いずれにしても、今世紀最大のヒット商品の1つに数えられるだろう。

また、発売に先がけて有料でプレビュー版を購入できるWindows Preview Programも、その申し込みが殺到し、ニフティサーブなどのシステムダウンまで引き起こすような盛況ぶりだったようだ。マイクロソ

フトは1万人の枠を2万人に増やしたそうだが、運良く当選してすでにWindows95を手に入れている人もいるかもしれない。

今回は、Windows95の持つネットワーク機能の特徴について、話を進めていくことにしよう。

自分だけのファイルを ネットワークに公開

ネットワークがインストールされたWindows95のデスクトップには、ネットワークコンピュータというアイコンが表示される（図1）。このアイコンを右クリックすると、メニューが表示されるので、その中からプロパティを選択すると、図2の設定ダイアログがオープンする。

前回は、TCP/IPの設定をして、LANを構築し、すでに稼働中のWindows NT Serverのドメインに接続できるようにしたわけだ。Windows95にあらかじめ搭載されているネットワークは、ピア・ツー・ピアで機能する。つまり、NT Server上の共有リソースにアクセスできるだけでなく、自分のパソコンに置かれたリソースをネットワー



図1 Windows95の標準的なデスクトップ画面

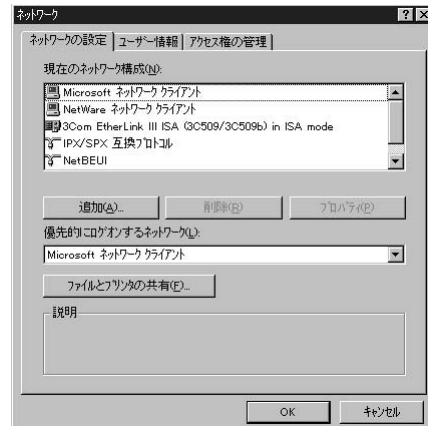


図2 ネットワークの基本的な設定を行うプロパティ。「追加」を押すと図3へ。

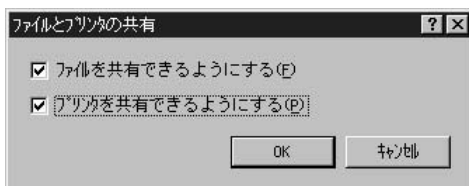


図3 このウィンドウでファイルとプリンタを共有できるようにする。

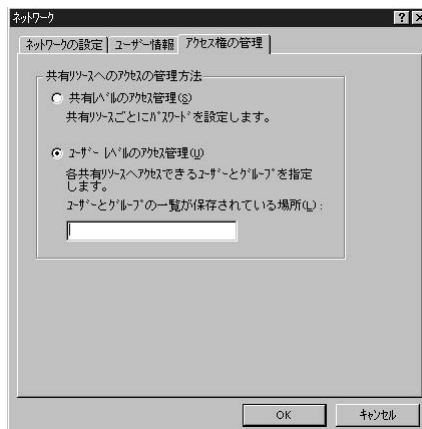


図4 アクセス権の管理。「ユーザーレベルの管理」をチェックすると面倒がない。



図5 PROGRAM FILE というフォルダの共有設定をする。追加ボタンを押すと図6へ。

クに対して公開することができる。

ネットワークのプロパティでファイルとプリンタの共有ボタンをクリックし、それぞれの共有ができるようにしておこう(図3)。また、アクセス権の管理タブでは、公開するリソースに対して、共有レベルのアクセス管理をするか、ユーザーレベルのアクセス管理をするかを選択することができる。Windows NT Server を使っているのなら、ユーザーレベルのアクセス管理が便利だ(図4)。

これが、Windows NT Server を使った最も大きな理由で、各リソースのアクセス権をドメインコントローラーのグループ設定のみで管理できるからだ。この機能が使えなければ、新しいユーザーが参加するたびに、

すべてのリソースに対してアクセス権を設定しなければならなくなってしまふ。

たとえば、CドライブのルートにあるPublic というフォルダをネットワークに公開するとして、ここには、他のパソコンを使っているユーザーが自由にアクセスすることができるようにしておき、あのファイルをここに置いておくから、必要ならコピーしていくようにといった使い方を。数人で運営しているような小規模なオフィスなら、どのパソコンからも、すべてのリソースが見えるように、ハードディスクそのものを共有してもかまわないかもしれない。

フォルダごとに アクセス権を設定する

共有の設定は、マイコンピュータアイコンから行う。まず、リソースの一覧を表示させ、共有したいフォルダが見える状態にし、それを右クリックする。すると、メニューが表示され、「共有」という項目が見つかるはずだ。それを実行すると、共有名やアクセス権を設定するためのダイアログボックスが表示される(図5)。共有名は、そのフォルダの名前を使えばいいだろう。ただし、長い名前はつけられず、12文字以内に制限されるようだ。

アクセス権に関しては、追加ボタンを押



図6 Domain Users をフルアクセスに設定した



図7 ネットワークコンピュータを開くとつながっているパソコンが見える。ここからいろいろなりソースを開いていく。

すと、どのユーザーがどういうレベルでのパーミッションを持てるかを定めるダイアログボックスが表示される。レベルには読みとりのみ、フルアクセス、個別設定がある。個別設定は、読みとりのみ、書き込みのみ、ファイルやフォルダの作成、削除、ファイル属性の変更、ファイルの一覧、アクセス権の変更という項目が用意されていて、それらを自由に設定できる。まるでUNIXだ。

ただ、UNIXと違うのは、これらのアクセス権を設定できる対象が、あくまでもフォルダであり、ファイルごとには設定できない点だ。Windows NTではファイルごとのパーミッションを指定できるので、その点で多少は不便を感じることもあるかもしれない。

アクセス権を設定できるユーザーは「世界」などといったグローバルなものから「ドメイン管理者」「ドメインユーザー」などまでが一覧される。要するに、Windows NT Serverが持っているドメインに登録されたユーザーやグループがズラリと並ぶのだ。

ここでは、Domain Usersにフルアクセスの権利を与えておく(図6)。これで、ドメインのユーザーなら、誰でもこのPublicというフォルダに対して自由にアクセスできるようになる。Windows95へのログインの際に、ドメインへのログインも同時に行われるため、パーミッションのある共有リソ

スへのアクセスの際に、改めてパスワードを入力する必要もない。また、上位のフォルダが共有されていても、下のほうの階層に他人に見られたくないフォルダがあれば、そのアクセス権を個別に設定することで、そこだけは見られなくすることができるので、公開するリソースを運用に便利のように組み立てていこう。

同一アプリケーションのファイルは共有する

実際のネットワークの運営では、このくらいの小規模なものなら、ディスクなどのリソースはできるだけWindows NT Serverに集めておき、それを共有するように設定し、各Windows95からは、そこを直接読み書きするようにしたほうが便利だ。データなどは、できるだけローカルのハードディスクには置かないようにし、異なるパソコンで仕事をしている各ユーザーが同じフォルダを使うようにするといいたいだろう。排他制御がきちんと行われるので、誰かがそのファイルを編集している際には、そのファイルは読み取りしかできないし、データベースなどの一部のアプリケーションでは、同じファイルに対して複数のユーザーが同時に読み書きできる。Windows95用のMicrosoft Excel 95などでも、1つのファイルに対して複数ユーザーの同時書き込みが

サポートされるようだ。

こうして、ファイルを共有するようになると、同じプロダクトに関わる複数のユーザーが、企画書などのファイルに対して別の変更を加えるなどして、似たようで異なるファイルができあがることもなくなる。当然、フロッピーディスクでのファイルのやりとりなども必要がなくなる。

これが、少し大きなオフィスでネットワークに接続されたパソコンの数が増えくると、すべてのユーザーがサーバーにあるファイルにアクセスするといった使い方では、ネットワーク上のトラフィックが増えすぎて処理速度が低下し、かえって効率が悪くなってしまふ。小規模なオフィスには、小規模なオフィスなりのネットワークの使い方があるということだと思ふ。

ドライブを意識せずに目的のフォルダへ

各パソコンからネットワーク上の共有リソースにアクセスするには、ネットワークコンピュータアイコンを使う。このアイコンを開くと、共有リソースを持つパソコンの一覧が表示されるので、それをどんどん開いていけば、目的のフォルダにアクセスできるわけだ(図7)。

Windows95では、ネットワークリソースに対して、UNCという指定を使える。これ

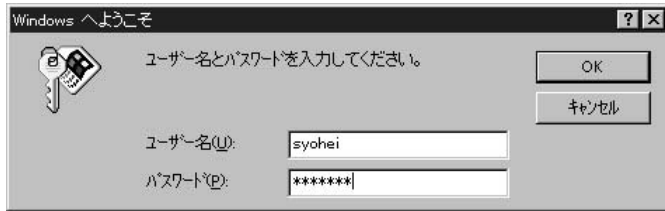


図8 Windows95へのログインウィンドウ。別の名前でログインすることもできる

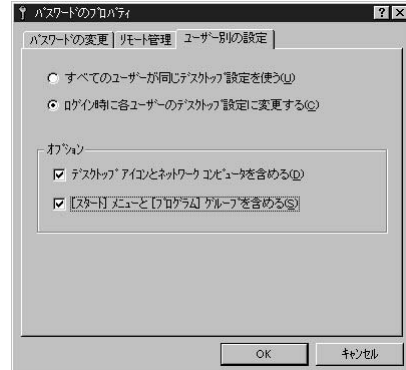


図9 パスワードのプロパティでデスクトップをユーザーごとに変更できるようにする。

は、インターネットにおけるURLと似ているが、リソース共有のためだけのものなので、ちょっと意味合いが違っている。

たとえば、rshpcにあるhddという共有リソース内のpublic filesというフォルダの中にあるabc.txtというファイルは、\\rshpc\hdd\public files\abc.txtという名前でも指定できる。こういう指定の仕方をする、ドライブ名を使う必要がなくなるのだ。従来は、ネットワーク上のリソースを使うためには、そのリソースに対してドライブレターを割り当て、ドライブとしてアクセスせざるをえなかったが、わかりやすさの点ではUNCでの指定が勝っている。ちなみに、UNCは、universal naming conventionの頭文字をとったものだ。

ただし、アプリケーションによっては、ファイルのオープン、クローズのダイアログボックスでUNCを使えないケースもある。Windows95のアプリケーションデザインガイドでは、UNCを使えるようにすることが規定されているが、古い16ビットアプリケーションの多くは未対応なのだ。とはいえ、ネットワークコンピュータを使って見つけたファイルをダブルクリックしてアプリケーションをオープンした場合には大丈夫なケースもあるので、とりあえず試してみる価値はある。もちろん、古いアプリケーションとの互換性を守るために、従来どおりのドライ

ブ名の割り当てによるシェアリソースのアクセスもできるようになっている。

使う人が変わっても デスクトップを維持

さらに、Windows95の機能でうれしいのは、複数のユーザーで使うことができる点だ。オフィスによっては、そこにいる全員分の台数のパソコンを用意することができず、仕事に応じて1台のパソコンを交代で使っているようなケースもあるだろう。仕事に応じて、そのときだけ、最も高速なマシンを拝借したいということもあるにちがいない。Windows3.1までは、デスクトップが1つしか持てなかったため、他の人が設定を変えたりすると、次に使う人が迷惑したりしたものだが、もうその心配はない。

ユーザーの登録は簡単だ。最初に表示されるログオンの際に、新しい名前でログオンして、パスワードを入力するだけ(図8)。ドメインのユーザーであれば、そこへのログオンも同時に行われる。

ただし、このままでは誰もが共通のデスクトップを使うことになるので、コントロールパネルのパスワードアプレットを開き、ユーザー別の設定タブで、ログイン時に各ユーザーのデスクトップ設定に変更するようにしておく(図9)。さらにオプションで、デスクトップアイコンとネットワークコンピュ

ータを含めるかどうか、スタートメニューとプログラムグループを含めるかどうかを決められる。

これで、自分が使うときには自分がいちばん使いやすい状態のデスクトップが呼び出されるので、複数のユーザーが1台のパソコンを共有する場合のトラブルがなくなる。

Windows95では、デスクトップは、一種のフォルダであり、OLEのコンテナとして機能する。頻繁に使うツールやデータなどを置いておくことができるので、マルチユーザーのシステムは重宝するはずだ。みんなが使う机の上には私物を置いてはいけないというのでは、不便きわまりない。

標準装備された 電子メールシステム

せっかくネットワークでパソコンがつながったのだから、ユーザー同士のコミュニケーションも電子メールが使えるようにしよう。Windows NT Serverに標準添付された電子メールシステムで、サーバーにポストオフィスを用意しておき、それに対して各ユーザーを登録し、Windows95側からは、受信トレイアイコンをオープンしてアクセスする。このアイコンは、Windows95のセットアップ時にMicrosoft Exchangeを組み込んだ場合に表示される。今回は、その使用例について話をすすめていくことにしよう。



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp